

2005年総選挙報道の分析

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学社会科学研究所 公開日: 2013-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井田, 正道 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/15136

2005 年総選挙報道の分析

井 田 正 道

2008 年度は前年度に引き続き、2005 年総選挙に関する 3 大紙（朝日新聞・読売新聞・毎日新聞）研究では大全国紙について 2005 年総選挙報道に関する内容分析を行い、その特色と傾向について論じるものである。内容分析の対象期間は、小泉首相が郵政解散を行った直後から投票日当日までの約 1 ヶ月間）の総選挙報道の内容分析を行った。内容分析のフォーマットの作成に当たっては、Thomas E. Patterson が米大統領選報道の内容分析を行うに当たって作成した分析枠組みである「ゲーム報道」と「実質報道 (Substance)」の枠組みを基本としつつ、日米両国の選挙事情の違いなども考慮に入れ、独自のコーディング用紙を作成した。

筆者は、ゲーム報道をあくまで選挙結果に関連した競馬的側面に関する報道と定義し、実質報道は当該選挙で有権者の判断基準となるべき事項に関する報道と定義する。

内容分析の対象期間は、各総選挙における公示日から投票日当日までの期間である。なお、読者投稿欄、地域面は分析の対象から除外した。

コーディングに当たっては、各カテゴリーから各記事がもっとも該当するものを選択するというシングル・コーディング方式を採用した。また、各記事の大きさをコラムセンチによって計測し、記事数のみならず記事の大きさという観点からも内容別の比較を検討できるようにした。コーディング作業は訓練を受けた大学生によって行った。

2007 年度においては選挙公示後の 3 大紙の内容分析（朝刊 1 面～5 面）を行った。2008 年度実施した研究内容を以下に記す。分析対象となったメディアは 3 大全国紙（朝日新聞、読売新聞、毎日新聞）である。

①. 衆院解散翌日（2005 年 8 月 9 日）から公示日前日（8 月 29 日）までの内容分析（朝刊全頁および夕刊全頁）。

②. 選挙公示日（2005 年 8 月 30 日）から投票日前日（9 月 10 日）までの期間の、朝刊 6 面以降および夕刊全頁の内容分析。

③. 3 紙のデータベースよりキーワード検索。

研究日程は以下のとおりである。

2008 年 4 月 紙面を縮刷版よりコピー、コーダーの訓練

2008 年 5 月～6 月 コーディング作業およびデータベース検索

2008 年 6 月～ データ入力

2008 年 9～10 月 データ・クリーニング

2008 年 11 月～ 分析